

## 会から

○二月の窓を開けば風が寒い。窓を閉ざしつゞけると室内の空気が悪い。殊に火鉢などを用いているとき、二酸化炭素が健康を害する。窓一つ、あけようか、しめようか。先生の氣ばたらきはこまかい。

○二月の保育室には必ず、寒暖計が備えつけられなければならない。しかし、備えつけてあつても、見なければ備えつけてないのも同じである。見ても、標準の度が分つていないと、見ないのと同じである。こわれているに至つては室の裝飾にもならない。○晴れた日のテレスに日だまりの暖かさを樂める設備は、洋風建てには一つの必要といつてもいい。それが無かつたら、何とか設備したい。大工さんに一日も働いて貰えば容易にできるだろう。先生方だつてむつかしい仕事ではない。ビルグリム・コツテーザ風の極く簡単なのでいゝし、却つて趣きがあるだろう。先生は不器用でも困るが、不精では困る。

○庭のぬかるみは、子供を室外不出にさせ

る大障碍だ。雪解けの大ぬかるみは別として、毎日の霜解け位は、一寸した用意で何んとかできそうである。子供の靴を泥で重くさせて、だからお部屋に閉じこもつていなさいというのにといつても、空は紺青のきさらぎ空に晴れて居り、霜の多い朝に限る、特別にばか〜と日が照つて居る。

○二月は寒いく〜というが、末頃になればそろ〜春の來るのを感じさせる。その早春の訪れを迎える用意もほしい。早咲きの梅の木の本位ほしい。アスファルト庭で木が植えられなければ、梅の小鉢の一つ二つ、迎春使として南の窓においてやりたい。若し、南斜面のところでもあつて、草の芽が楽しめる仕かけになつていたら、早春のために門をあけておいてやるようなものだ。それらの待ちもうけて子供らと共に、春の若神を迎えに出でまし給う先生の楚々たる歩みの、いと〜みやびにいますことよ。二月の女神ともいおうか。

○二月鍛練も、新興小國民の保育に必要かも知れない。しかし、ぬれ足袋保育、凍り弁当保育、こわれ障子保育、せきコン〜

保育、などは、タンレンを越えるかもしれない。少しはレントン保育を加えても、子供を弱くする所以ではあるまい。

○毎年の出欠表を出して、二月はどうも風邪欠席が多いのが通例ですとおつしやるがそのかせをひかせる保育法が通例という訳でもあるまい。幼い子供の病氣は、まだまだ、おとなの不注意からですぞ。その不注意なおとなの中に先生が居ては申訳ありません。二月の感想です。

### 幼児の教育 第五卷 第二號

定価 金五拾円

昭和二十七年二月二十日發行

東京都中野区千光前町一〇

編集者 倉 橋 惣 三  
發行者

東京都文京区大塚町三十五

お茶の水女子大学附屬幼稚園内  
發行所 日本幼稚園協會

東京都千代田区神田保町二ノ四

發賣所 株式會社 フレーベル館  
振替東京一九六四〇番

○本誌購読については文中迄の他はすべて  
所フレイベル館宛願います。